

グローバルCOEプログラム 拠点形成計画調書

1. 拠点のこれまでの教育研究活動

(本拠点におけるこれまでの教育研究活動(人材育成の現状と実績、研究水準の現状と実績、国内外との比較)について記入してください。21世紀COEプログラムに採択されている専攻等を含む場合は、その教育研究活動の状況を含めて記入してください。)

○本拠点におけるこれまでの教育研究活動

神戸大学では、H15年度21世紀COEプログラム「惑星系の起源と進化」(COEPS)の採択と同時に自然科学研究科地球惑星システム科学専攻を設置し、H19年度にはこれを理学研究科地球惑星科学専攻と改組した。併せて、理学研究科附属施設として、惑星科学研究センターを設置し、惑星科学に関する教育研究を推進する体制を構築した。COEPSでは、惑星科学の種々の手法を連携させ手法横断的に対象に迫る研究スタイル「神戸モデル」を定着させ、惑星科学の新たな展開を切り拓いた。

連携する北海道大学では、H18年度の理学研究科の改組に併せて理学院宇宙物理学専攻を新たに設置し、世界でもユニークな、宇宙の誕生から惑星の形成進化までを一貫して扱うシームレスコスモゴニーという理念に基づく教育研究体制を創始した。H19年度には理学研究院附属施設として原子核反応データ研究開発センターと宇宙観測基礎データセンターを設置し、宇宙物理学から惑星科学までを対象とした教育研究基盤が整備された。

○学内外及び国内外における人材育成

COEPSは、予算の7割以上を人材育成に傾注し、国内外公募によりCOE研究員を雇用し、学内公募によりリサーチアシスタント(RA)を雇用、若手への財政支援策とした。また、海外派遣事業を行い国際性豊かな人材の育成を進めた。COE研究員として採用された19名のうち15名が事業期間内に学外の教員や研究員となって、国内外で惑星科学研究者として活躍している。COEPSの事業としては、国際プラネタリクスを毎年(計4回)開催して、講師(延32名)・聴講者(延355名)の交流の場を創り、講義資料をウェブ上に掲載して国内外の若手研究者の教材として提供した。また、エクステンジプログラムにより米・独の研究機関との若手研究者交流(4組10名)を実現した。



プラネタリクス

http://www.org.kobe-u.ac.jp/cps/psindex_j.html

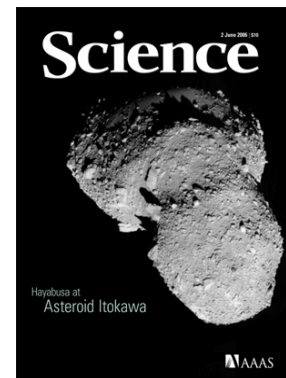
北海道大学では、森羅万象学校や地球流体(GFD/FDEPS)セミナーという合宿形式のスクールを開催あるいは共催し、直近3年間だけでも延355名が参加した。若手による情報化活動集団(epnetfan/mosir)を創設、講演動画とテキストを組み合わせた講義資料をウェブ上に整理し、掲載提供してきた。H18年度には「魅力ある大学院教育イニシアティブ」に採択され、若手による情報化活動集団のための環境を拡充し、上記セミナーに加え惑星科学フロンティアセミナーも共催し、広く国内外の大学と単位互換を行った。

○国際的にみて第一線級の研究実績

小惑星「イトカワ」の探査観測成果(*Science*誌特集号の7編中5編に神戸大研究者が貢献)や米国「スターダスト計画」の彗星塵分析で国際的に高い評価を得、太陽系外惑星の観測では、散開星団に初めての惑星を発見し、実験的研究では、衝突実験と隕石分析をリンクさせ惑星形成時における物質進化を新しい視点から解明した。原始惑星系の力学及び化学進化においても優れた成果を発表した。これらの成果を基にSpringer社の*Lecture Notes in Physics*に英文教科書“*Small Bodies in Planetary Systems*”を上梓した。

北海道大学においては、極低温の氷基板上へ原子線を照射する実験により、星間分子の生成過程を解明した。また、系外惑星系円盤における物質進化においては、全国の研究グループを組織し世界をリードする広範な研究を展開した。太陽系の酸素同位体組成不均質の成因に関する新しい説明を提案した。惑星大気に関しては、ユニークな探査機搭載機器の開発とデータ解析を行い、惑星間空間へ流入する星間風の存在を直接実証、定量した。

以上のように両大学とも、国内外を通じて第一線級の研究実績を有している。



イトカワ特集号(2006年6月)

2. 拠点形成の目的、必要性・重要性、期待される効果

①-1 本拠点がカバーする学問分野を具体的かつ明確・簡潔に記入してください。また、「学際、複合、新領域」分野への申請の場合は、本申請のどういった点が「学際、複合、新領域」分野に該当すると判断したのかについて明記してください。

本拠点がカバーする学問分野は惑星科学である。惑星科学は、恒星における元素合成、ガスやダストの生成と物質進化、原始惑星系円盤における惑星の形成と進化、惑星の多様性の発現に至る過程などを解明し、それらの理解を総合して惑星系の起源・進化・多様性に関する一貫した描像を構築することを目的としている。その手法は、理論・シミュレーション、観測・探査、室内実験、化学的・鉱物学的分析の広範囲にわたる。

①-2 世界最高水準の優れた研究基盤や特色ある学問分野の開拓を通じた独創的、画期的な研究基盤を前提に、拠点としてどのような人材育成や研究活動を行うのか、それによりどのような拠点を形成するのかなどの拠点形成計画の構想・目的（特に拠点の目指す方向性等）・必要性について明確に記入してください。

○拠点形成計画の必要性

惑星科学の本質は、**細分化された分野・手法によって得られた知見情報を総合し、惑星および惑星系の起源・進化・多様性の全体像を統合的に構築し、普遍化すること**にある。神戸大学COEPS及び北海道大学は、それぞれ手法と分野を横断する教育研究体制を構築することにより、惑星科学における種々の成果を生み出してきた。しかし、惑星科学におけるフロンティアの拡大と研究の深化は、起源・進化・多様性の全体像を把握し、同時に、高い専門性を維持することが困難になりつつある。COEPS及び北海道大学が行ってきた方向性を堅持し、拡大深化する研究領域を統合することにより波及性の高い成果を生み出していくためには、分野を俯瞰し横断的な教育研究を可能とする抜本的な体制の強化が必要である。そのためには、研究活動の展開、先端知見の集積提供、そして、これらを担う多様な人材の育成を、**個別の大学の枠を超えて組織的に行う仕組みが不可欠**であると痛感している。

○目的・方向性

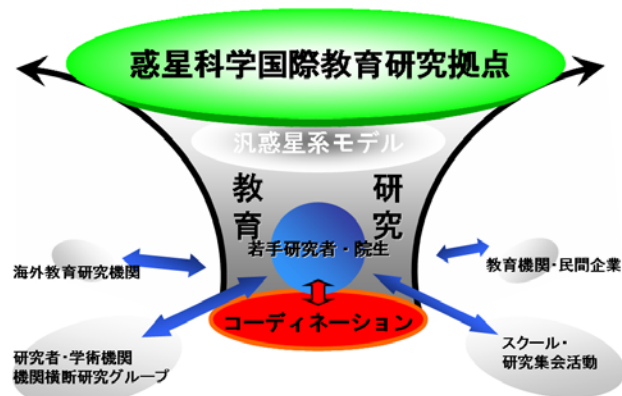
惑星科学研究センターを、企画運営・情報化・国際連携などへの対応力を持ち、内外の惑星科学研究者やグループによる教育研究活動のネットワーク化を支援する中核ハブの役割を果たす**コーディネーションセンター**に拡充する。コーディネーションセンターとしての惑星科学研究センターは、惑星科学コミュニティにおける**人材育成活動や研究活動の触媒となり、惑星科学の様々な領域から人材が集い知見情報が集積される場**を形成し、惑星科学の広がりをもつための基盤として機能する。

5年後には惑星科学研究センターを、国際的な共同教育研究活動を展開する**惑星科学国際教育研究拠点**として発展させ、国内外から人が集いと情報が集積される**世界のセンターのひとつ**として確立させることが本拠点形成計画の目的である。

○拠点形成計画の構想

惑星科学国際教育研究拠点とそれにふさわしい場の形成を目指し、以下のような事業を展開する。

- **コーディネーションセンターの形成**: 惑星科学コミュニティにおける、教育研究の企画や教育研究プログラム(集会やスクール)の提供、教育研究基盤の構築と提供、国際連携の推進、社会交流(企業との連携)に従事あるいはこれを先導触媒する各種コーディネーショングループの創設。
- **多様な人材教育**: 惑星科学の知見情報を集積提供し発展させる場とするための各種セミナー群の開催あるいは開催支援。国際的活動や共同研究を促進し多様な能力を涵養するための人材交流。また、若手研究者・院生に**コーディネーションセンターの形成・運営に参画する機会**を与えることによって、研究能力のみならず惑星科学の展開に必要な**企画力、組織力、運営力、国際対応力、基盤構築力**などを備えた多様な人材を育成。
- **汎惑星系モデルの構築に向けた研究の推進**: このような場と人材の活用を通じて、惑星系の起源・進化・多様性に亘る研究を推進し、汎惑星系モデルの構築を目指す。



①-3 他の大学等と連携した取組については、その必要性について記入してください。

○分野・手法の連続的広がり確保 惑星系の起源・進化・多様性を探求し汎惑星系モデルの構築に迫る上で、惑星科学の広い分野にわたる有力な研究者を擁する北海道大学との連携は、分野と手法の連続性を高め、教育研究力を拡充する上で極めて有効である。

○神戸大学にはない装置群と強化されるソフトウェア開発能力 北海道大学が有する宇宙電波望遠鏡や低温実験施設は、起源・進化・多様性の探求を進める上で強力なハードウェア資源であり、教育研究の展開にとって必須の施設である。また、北海道大学において行われてきた流体数値計算ソフトウェア群の開発研究は、起源・進化・多様性の数値的探求能力を拡充する上できわめて強力である。

○神戸大学にはない情報基盤構築力 本拠点が計画する惑星科学研究センターの活動は、国内外に分散する研究者や院生からの情報の集積と提供を可能にする、高度な情報基盤の構築運用力の存在を前提としている。北海道大学宇宙理学専攻における情報基盤構築、それを可能とする人材育成、それを用いた教育研究活動はその実践に他ならず、惑星科学コミュニティにおいて同レベルの機能を提供できる組織は他に存在しない。

①-4 本拠点が我が国のCOEとしてどのような重要性・発展性があるのか、いかに優れたもの、または、ユニークであるかについて、国際的な水準から見た現状等（国内外の国際的な拠点との比較等）を具体的かつ明確に記入してください。国際的な水準から見た現状等については、本プログラムが、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を目指すものであることを踏まえ、分野の特性などに応じ、可能な限り国内外の国際的な拠点の例も挙げ、比較しつつ記入してください。

○我が国のCOEとしての重要性

総合科学としての惑星科学の教育研究においては、インターユニバーシティの体制構築が極めて重要である。これによって高い専門性に加えて総合化力を備えた研究者の育成が可能となる。特に我が国においては、惑星科学者の集積する教育研究機関は限られており、また、それらにおいても惑星科学の全体をカバーする専門的かつ総合的な研究教育を行うことは困難である。全国に分散する研究教育活動をコーディネートし、相互に補完提供することを可能とする中核組織の構築は、上記困難を打破し、我が国の惑星科学が、個別散発的な研究成果の提供だけではなく、惑星科学全体の総合力をもった一級の研究分野領域として世界における存在感を維持し発展させていく上で極めて重要である。

○我が国のCOEとしての発展性

本拠点は、惑星科学研究センターが惑星科学コミュニティにおけるコーディネーションセンターとして機能し、我が国の惑星科学の展開を触媒し、社会への窓口としても機能する「真のCOE」、**惑星科学国際教育研究拠点**へと発展確立することを前提に設計されている。本拠点計画は、惑星科学研究者が比較的集積している国内二大拠点である神戸大学と北海道大学が、いわばコミュニティに対する責務として、コーディネーションセンターの構築を行うことを骨子としている。従って、その運営はコミュニティからの提言・批判を受け入れる開かれた体制であることに留意しており、それはいずれ惑星科学研究センターが二大学だけでなく内外の惑星科学コミュニティによって支持運営される惑星科学国際教育研究拠点にスムーズに移行するための必然的な構造に他ならない。

○ユニークさ・国際比較

本拠点は、拠点内に閉じた個別的な教育や研究だけではなく、惑星科学コミュニティで展開されている各種教育研究活動のコーディネーションを行うことを重視し、人々が集い知見情報が集積する場の形成に重点を置いているところに特色がある。そのような場を介することによって、惑星科学の全体を俯瞰することが可能になり、惑星系の起源・進化・多様性の一貫した考察を行う条件が整う。また、教育面においては、通常の研究教育だけでなく、コーディネーション活動に若手の積極的な参加を促すことにより、惑星科学の展開に必要とされる企画力、組織力、運営力、基盤構築力などを備えた多様な人材を育成するところがユニークである。

世界における、近い機能を有する惑星科学の拠点はLPI(月惑星研究所、米国)である。LPIはNASAと大学との連携のインターフェースの役割を担い、各種データベース作成活動、種々の国際会議、ワークショップ、インターンシップの企画とそれらの支援、NASAの月惑星探査計画に関する各種支援活動を行っている。本拠点が目指す**惑星科学国際教育研究拠点**は、このような機能をもつ中核センターを我が国に構築し「惑星科学国際COE網」におけるアジア地域のノードとして機能させることに他ならない。

② 本プログラムで行う事業が終了した5年後に期待される教育研究の成果及び拠点により見込まれる学術的または社会的な意義・波及効果等について記入してください。

○**汎惑星系モデルの構築** 惑星系の起源・進化・多様性を統合し普遍化した「汎惑星系モデル」を構築し、宇宙における太陽系の普遍性と特殊性、地球の普遍性と特殊性を理解する。

○**惑星科学国際教育研究拠点の創設** 現在の惑星科学センターを、世界の惑星科学研究ネットワークのノードの一つとして機能する惑星科学国際教育研究拠点へと発展させる。惑星科学において、教育までを含むコーディネーションに焦点を当てた機能を有する機関はアジア域において現状では皆無であることから、当拠点は、世界の惑星科学研究ネットワークにおいて重要な位置を占める。

○**惑星科学の全体を俯瞰しつつ展開される強力な研究活動** そのようなセンターを我が国が持つことにより、個別研究を推進するだけにとどまらない、世界において存在感のある惑星科学の展開が可能になる。

○**多様な人材の輩出** コーディネーション活動には、博士研究員や院生が積極的に参加することから、個々の研究活動に加えて、惑星科学の学問体系における研究の位置付けや研究基盤構築の重要性まで含む、複眼的な視野と国際性を備えた人材が輩出される。開かれたセンターの機能の一つとしての企業や自治体等の研究者も参加する技術研究会等を通じて、若手研究者のキャリアパスが広がる結果、社会の広い分野で活躍できる人材が供給できる。

○**新たな形態の中核教育研究組織の提案** 教育研究活動のコーディネーションと支援に焦点を当て、人が集い情報が集まる場の形成を目指す中核組織は国内においては見当たらない。高度化専門化する学問の展開において、総合化を目的としたこのような方法論は、惑星科学分野だけでなく他の分野においても参考になるだろう。

3. 拠点の運営体制（拠点として機能するための運営マネジメント体制について、以下の①、②の点を具体的に記入してください。）

① 拠点リーダーを中心とした事業推進担当者の教育研究活動の連携体制（他の大学等と連携した取組については、その実施体制を含む）

○運営体制の概要

本拠点の運営体制は、惑星科学研究センターがコミュニティの教育研究活動のコーディネーションセンターとして機能し、惑星科学の知見が集積され人的交流が促進される場を形成するためのものである。拠点＝惑星科学研究センターに統括組織として運営委員会を設置し、その下に実務作業や企画実行を担う各種コーディネーショングループ(CG)を構成し、それらの基盤の上に教育事業と研究事業を展開する。実務支援オフィスはこれらの活動の事務を司る。人材育成は、研究事業における研究指導、教育事業におけるスクーリング、そして、コーディネーショングループに参加しての運営・企画・基盤構築等の実地教育の三重体制で行われる。

○組織と役割（カッコ内の名前は各グループまたはプログラムのリーダーで、事業推進担当者である）

- **運営委員会（委員長＝拠点リーダー）**（中川）運営委員会は、各グループ・プログラム・実務支援オフィスを統括し、活動計画の策定と活動の指揮監督を行う。委員長は拠点リーダーが担い、委員は各グループリーダーである。惑星科学コミュニティの外部協力者にオブザーバーとして運営委員会に参加することを要請、コミュニティに開かれた運営体制を担保する。
 - **コーディネーショングループ(CG)** 以下の5つの機能別のコーディネーショングループ(CG)を運営委員会の下に置く。CGは本拠点の教育事業と研究事業を支援するほか、惑星科学コミュニティに広がる外部諸活動との調整を行い、あるいは、これらへの支援を行う。
 - **教育研究CG**（香内）教育プログラムの設計提供や研究集会の開催支援を行い、共同研究の企画調整などに従事する。
 - **基盤CG**（林）共通利用可能なソフトウェアの開発など、教育研究活動に必要とされる基盤的な資源の開発整備あるいは開発整備活動の調整支援を行い、インターネットサーバの運営と知見情報の集積、アーカイブなどに従事する。
 - **国際連携CG**（向井）海外の教育研究機関との人材交流や海外への情報発信を支援する。
 - **社会交流CG**（中川）企業との研究連携の促進や博士修了者レベルの就職活動を支援する。
 - **将来構想CG**（山本）若手研究者とともに惑星科学の展開を構想し、必要な提言を行う。
- 事業推進担当者ならびに特命教員は分担してこれらのCGの活動を運営する。ポスドク(研究員・技術研究員)・リサーチアシスタント(RA)は一つ又は複数のCGに配置されその機能を補佐する。
- **教育事業**（倉本）教育事業統括責任者はプログラム間の調整を行い、惑星科学知見の集積ならびに提供の場として機能させる。各CGからの支援により次のプログラムを提供する。
 - **スクールプログラム**（相川）国内外の講演者によるインターネット講義・合宿講義を開催する。
 - **実習プログラム**（中村）実習形式で高度な実験、観測、数値計算などの技術を磨く。
 - **エクステンジブプログラム**（渡部）国内外の機関との間で院生・若手研究者の派遣・受入を行う。
 - **研究事業** 全事業推進担当者は以下のグループに分属し、起源・進化・多様性の探究を、相互の協力と各CGの支援の下で推進し、その総合化と汎惑星系モデルの構築を目指す。
 - **理論・モデルグループ**（藤本）理論ならびに数値計算を用いての探求。
 - **探査・実験グループ**（留岡）探査、観測、実験、分析を用いての探求。
 - **実務支援オフィス** 以上の活動に関わる事務支援を担う。資金管理とコンプライアンス管理のマネージャー1と事務スタッフ2を神戸大学に、サブマネージャー1とスタッフ1を北海道大学に置く。

○北海道大学との連携体制

神戸大学学術研究推進本部ならびに北海道大学研究戦略室が連携し、本拠点の運営を助言し、推進支援する。

拠点の運営は、惑星科学研究センターと連携先の北海道大学ならびにキャンパス外遠隔観測設備群とを結ぶネットワークの広帯域化を進め、ネットワーク会議・講義システムとサーバシステムを構築し、ネットワーク上での一体運営を実現する。また、会合を年4回程度開催しこれを補完する。

② 教育研究活動の状況を組織的に把握・改善する仕組み、自己点検・評価体制（外部者による評価も含む）の整備

○**自己点検評価** 運営委員会は、随時内部ヒアリングを実施することにより、教育・研究・コーディネーションの各グループまたは各プログラムの活動を点検し、改善を勧告する。各グループからの報告を下に年次活動報告を行う。

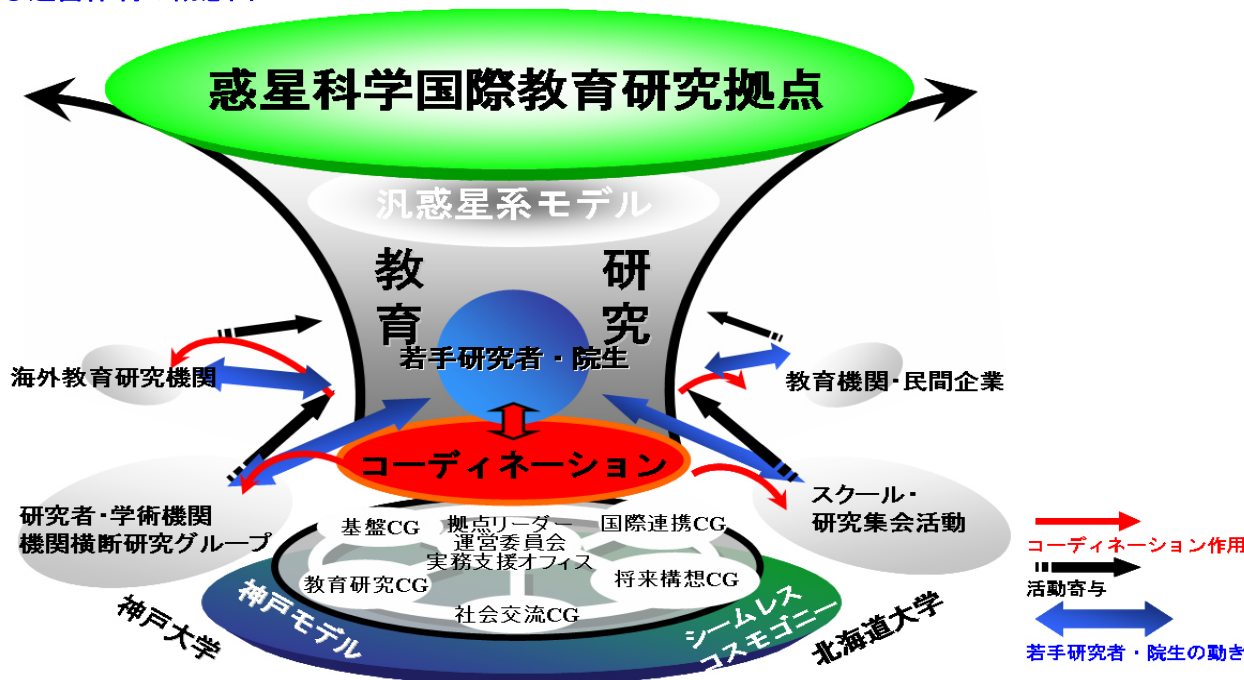
○**神戸大学と北海道大学による評価** 神戸大学大学院理学研究科長、北海道大学大学院理学院長、及び両大学教員による、二大学合同評価委員会を設立し、拠点運営の評価を行う。同委員会は拠点リーダーからの報告をもとに事業達成状況を評価し、改善の勧告を行う。

○**恒常的国際評価** 国際水準にある国内外の専門家から外部評価委員を委嘱招聘し、ヒアリングによる評価を随時実施し、あるいは、助言を受ける。特に、惑星科学研究センターの組織運営体制に関しては、海外のコーディネーション機能を有する先進的な研究所から有識者を招聘し、批判と助言を受ける。これを頻繁に行うことでより効果的で迅速な拠点運営改善を実現する。

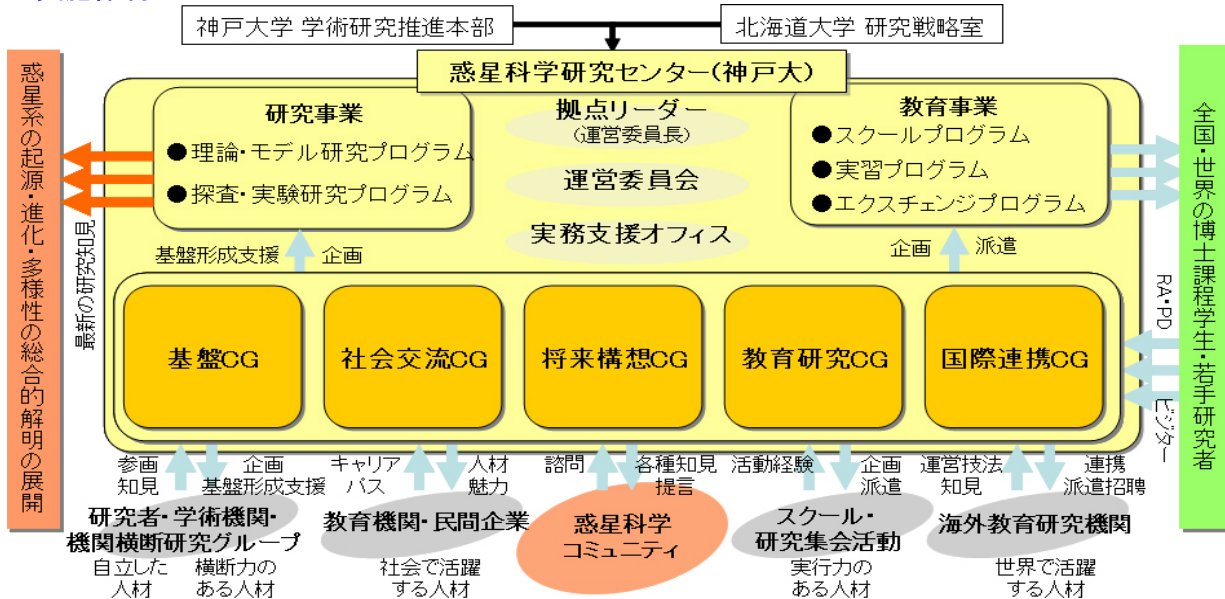
4. 拠点の運営体制の概念図

(3. 拠点の運営体制で述べた実施体制を示すイメージ図を添付してください。)

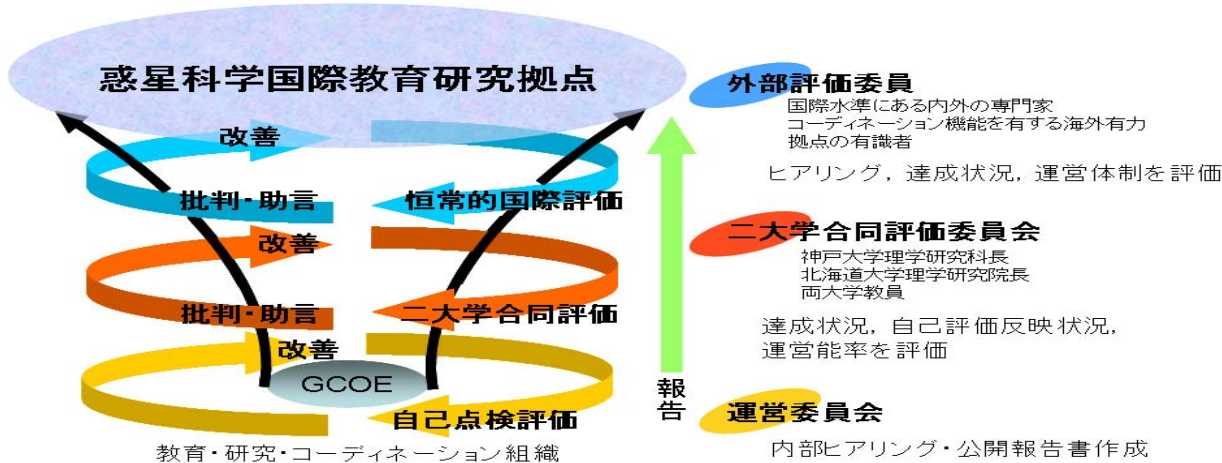
○運営体制の概念図



○実施体制



○評価体制



5. 人材育成の計画

① 人材育成の具体的な達成目標について記入してください。
 (学生に対する教育については、専攻等の人材養成目的を踏まえ、どのような人材を育成しようとしているのか(人材育成の基本理念など)を示した上で、具体的な達成目標について記入してください。)

○人材育成の具体的な達成目標

本拠点は、惑星系の起源・進化・多様性を総合的に解明する研究教育理念(「神戸モデル」、「シームレスコスモゴニー」)を踏まえ、広く社会に貢献できる以下の資質と能力をもった多様な人材の育成を目標とする。

- A) まったく新しい研究課題を提案し、自立して研究環境を構築しこれを実行できる能力
- B) 広い専門的視野を持ち、研究を指導的に推進できる能力
- C) 惑星科学の先端技術と知見を惑星科学以外の分野や社会に役立てる能力
- D) 国際的視野と国際的な情報発信力

② ①の人材を育成するための具体的な教育計画について記入してください。

- ・ 人材育成のために必要な指導体制(研究指導体制、キャリアパス形成に対する支援体制など)、教育プログラム等
- ・ 博士課程学生に対する経済的支援や、若手研究者に自立して活躍できる機会を与えるなど、若手研究者がその能力を十分に発揮できるような取組
- ・ 国内外から優秀な学生を集めるための方策(このための情報提供を含む)や、学生の流動性を向上させるための方策、国内外の優れた教員の雇用・招聘や留学生を含む若手研究者の派遣・受入れ、海外の大学等と協力した人材育成プログラムの実施など、国際的に活躍できる人材を育成するための工夫 など

○指導体制 本拠点での人材育成は、研究事業における研究指導、教育事業におけるスクーリング、そして、CGに参加しての運営・企画・基盤構築等の実地教育の三重体制で行われる。

- ・ **研究事業における指導** 神戸大学と北海道大学の事業担当者は協力して研究指導にあたり、**学位論文審査委員の相互乗り入れ**を実施し、院生の研究の質を向上させる。
- ・ **教育事業における指導** 教育事業として後述の3つのプログラムを提供する。
- ・ **CGにおける指導** 院生ならびにポスドクは**CGの活動に参画**し、各CG教員の指導を受け、惑星科学の背景について学び、運営企画と基盤構築について多くの実例に接する。基盤、教育研究、社会交流、国際連携の各CGはそれぞれ上記A)、B)、C)、D)で記された資質の開発にたずさわる。これにより指導的な研究者に必要な、惑星科学のほぼ全体を網羅する広い視野と、まったく新しい分野の研究を立案し遂行できる基盤構築能力の養成に資する。これに加えて、将来構想CGは院生や若手研究者に自由な議論を喚起する場を提供し、将来を考える姿勢を陶冶する。

○教育事業が提供するプログラム 以下の教育事業プログラムを国内外に提供し、あるいは支援する。

- (1) **スクールプログラム** 教育研究CGが中心となって、各種スクール(プラネタリウム、惑星科学フロンティアセミナー、森羅万象学校、GFDセミナー等)をそれぞれ拡充し、**インターネット放映と合宿の大きく二種類のスタイルの講義スクールを開催**する。
- (2) **実習プログラム** 実験分析、観測データ処理、大規模シミュレーション技術の実習トレーニングコースを、他教育研究機関との協力体制を構築して実施する。大気循環シミュレータ開発において、すでに同種活動実績がある。教育研究、基盤、社会連携の各CGが協力して企画する。
- (3) **エクスチェンジプログラム** 21世紀COEプログラムにおいて構築した海外連携拠点をベースに、院生を含む**若手研究者の海外派遣**と、**海外若手研究者の受け入れ**を行う。国際連携CGと本学留院生センターが協力し、**宿舍提供を含めて滞在支援**を行なう。教育研究CGが中心となって、両大学を含む国内教育研究機関の院生・若手研究者の交換派遣を行い、**院生の流動性を高める**。

○キャリアパス形成支援 スクールおよび実習プログラムに**企業による最先端技術等の講義・実習**を盛り込み、同時に院生とPDによる**企業人向け関連研究発表会を行う**ことによって、若手研究者・関連企業双方の交流を図る。社会連携CGが具体化を図る。

○博士課程院生に対する経済的支援と若手研究者の自立支援 両大学の博士課程院生から研究計画書を提出させ、その審査によりRA(30名、年1200時間、最大240万円)を雇用する。国内外の博士課程修了者から研究員(4名)・技術研究員(8名)を公募選考により採用し、スクールプログラムの企画実施、研究基盤構築や研究コーディネーションの現場実践の機会を与え、指導的研究者としての自立を促す。

○国内外から優秀な院生を集めるための方策と情報提供 旅費支給によるスクールプログラムへの参加促進、RA雇用による国内(委託学生)および国外(エクスチェンジプログラム)の人材発掘を促進する。教育事業プログラム資料に加え、基盤CGを中心に本拠点を含み惑星科学コミュニティの創出する先端知見のマルチメディアアーカイブを進め、インターネットを通じて公開、**惑星科学の魅力**を広く伝える。

○国際的に活躍できる人材の育成 連携先の海外教育研究機関とのエクスチェンジプログラムに加えて、**国際公募によって国内外の優れた教員を雇用**し、国際レベルの惑星科学教育に当たる。**国際的にエスタブリッシュした研究者を公開スクールプログラムの講師として招聘**し、最新のトピックスや研究情勢に触れさせる。企画推進は国際連携CGが中心となって行う。これを通じて若手研究者は高い国際的視野と発信できる能力を高めることができる。